



令和6年3月7日

立川市議会

議長 頭山太郎 殿

立川市議会文教委員会

委員長 わたなべ 忠司

行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察月日

令和5年11月7日（火）から8日（水）

2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
静岡県焼津市	部活動の地域移行について
大阪府池田市	不登校対策について

3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

文教委員会 視察報告書

【日 時】2023年(令和5年)11月7日 14:00~16:00

【視 察 先】焼津市(市役所：静岡県焼津市本町2-16-32)

【視察項目】部活動の地域以降について

【参加委員】わたなべ忠司(委員長)、瀬順弘(副委員長)、中山ひと美
永元香子、山本みちよ、山本洋輔

【対 応 者】焼津市教育委員会教育部学校教育課 指導主事 奥川慶一氏

◆取り組みの経緯と概要

焼津市は少子化の影響等により教員数や児童数が減少し、部活動数も減少させざるを得ない状況であった。そうしたことから、平成30年度から令和2年度において、部活動改革として部活動ガイドラインの策定(改定)、部活動在り方検討委員会の発足、部活動指導員や部活動外部指導者の派遣などを実施した。

また、国(文部科学省、スポーツ庁、文化庁)においても学校の働き方改革を踏まえた部活動改革が提唱されており、焼津市がその先駆けとして休日における地域クラブ活動が実現された。地域部活動の目的としては①(地域の運営を担う人たちにとって)やりがいや生きがいの創出、②生徒の上手になりたい、やってみたいというニーズを満たす、③子どもにとっても市民にとっても焼津らしい魅力的な活動を提供するという3点である。

◆取り組みの結果や効果

令和4年度に「焼津市地域クラブ活動」として5種目(柔道、剣道、相撲、ニュースポーツ、海洋体験)が導入され、休日に地域が主体となって運営する方式が実現し、51人が参加した。令和5年度には更に拡充され、12種目を実施、277人が参加した。種目は柔道や剣道、陸上、テニスなど、従前からメジャーであった種目もある一方、eスポーツやトランポリン、ニュースポーツ、海洋体験など、学校部活動ではなかなか実施できないような種目も挙げられている。令和6年度からは種目等を増やし、野球、サッカー、バレーボール、吹奏楽等を増設することであった。また、将来的には平日の学校部活動についても移行を検討していく可能性があるとのことであった。

◆質疑

立川市においても、部活の地域移行が検討中であることから、具体的な運用面や課題など、実用的な質疑が多かった。休日の部活動地域移行を実現するに至るまでの検討の過程、実現に際し指導者の確保、大会との兼ね合い、運営の在り方などが主な質疑内容であった。

【検討過程について】

「焼津市地域クラブ活動在り方検討委員会」の計画により「地域クラブ推進委員会」を立ち上げて、実現に向けて進めたという。

具体的に地域クラブ活動を開設する年間スケジュールとしては以下のようにしているとのことであった。

① 地域クラブ活動の開設希望受付（随時）

学校教育課で開設希望を受け付ける。原則として推進委員会で議論することを基本としつつも、ケースによっては開設の希望がある個人や団体もあるとのことで、開設準備が迅速にできそうな場合は在り方検討委員会や校長会等で相談して開設準備を行うとのことであった。

② 児童生徒・保護者・一般市民への広報（12月頃）

各学校にてリーフレットや広報紙などへの記載で地域クラブ活動の種類・募集時期の周知を行う（※部員募集の広報ではない）。

③ 地域クラブ活動指導者研修会への参加（翌年2月）

各団体に、運営計画書を提出してもらおうと共に研修会に参加してもらおう。

④ 部員募集案内（3月）

⑤ 部員募集（3～4月）

【運営主体について】

地域クラブ活動を担う人材の発掘や依頼についての質問が挙げられた。地域クラブ活動は開設希望があるスポーツ少年団やクラブチーム、塾や教室が立ち上げる場合もあるという。そうでない場合は、地域クラブ活動推進委員会で公募をしたり、元教員などに声をかけるなど、特定の手続きや手法に捉われずに確保に努めているとのことであった。

【大会の兼ね合いについて】

部活動の大会に際しては中体連などが運営しているが、一般的に部活動として認知されている（すなわち顧問が存在している）団体に限ることが多く、その場合、顧問不在の地域部活動については参加が認められないのではないかとの懸念が寄せられた。その質疑に対しては、教育委員会の方から中体連等に参加できるように配慮するよう要請をするようであるが、あくまで主催が決定する事項なので、難しい側面もあるとのことであった。

【運営の在り方について】

運営費用（主に会場使用料、保険料、指導料）は受益者負担を原則としている。多くの場合は月数千円程度であった。運営については「総合的なガイドライン」を守った活動とし、また運営計画を事前に提出させる。また、教育委員会へは活動報告や会計報告を行わせることで、適正な運営に努めているとのことであった。

◆所感

教員の部活動も含む様々な業務の負担について、本市議会においても度々課題として取り上げられてきたところで、本視察もその課題意識を念頭に置いたものであり、本市の今後の部活動の在り方を検討するに際して大変有意義な内容であった。

但し、焼津市においても部活の地域移行の現状は休日のみであり、平日においては学校での部活が中心となっている。学校部活動については依然として顧問がその責任を担っている状況であり、教員の負担軽減という点においては今後も検討課題ではないかと感じた。

特筆すべき事項としては、学校部活動ではなかなか体験できない種目（eスポーツやトラップリン、ニュースポーツ等）、地域ならではの種目（海洋体験）が休日の地域部活動が実施されており、こうしたことは生徒にとっても貴重な体験になるのではないかと感じた。

こうした焼津市の先進的な取り組みは本市において部活動の地域移行を実現するに際しても非常に参考になるものだったと考える。本市では現在、「立川市立中学校部活動の地域連携及び地域移行に関する検討委員会」が結成され、学校や保護者、学識経験者、市内スポーツ・文化芸術関係団体等との議論がされており、また令和6年度からは中央大学と連携したトライアル事業も予定されている。こうした本市での動向にも、委員会として注視しつつ、今後も必要に応じ本視察で得た知見が活用できればと考えている。

文教委員会行政視察報告書

日程：2023（令和5）年 11月8日（水）13時半～15時半

視察先：大阪府池田市 特定非営利法人トイボックス『スマイルファクトリー』

視察内容：不登校対策について

参加委員：わたなべ忠司委員長 瀬 順弘副委員長 山本みちよ委員

中山ひと美委員 山本洋輔委員 永元 香子委員

* 池田市の概要

人口：103,064人 総面積：22.14 km² 世帯数：49,723世帯

* 事業内容

NPO法人『トイボックス』（大阪市西区）が運営する全国でも珍しい市の委託を受けた公設民営形式のフリースクール。

2003年に開設され、不登校やひきこもり、発達障害の小中学生ら約40人が通う。

スタッフは職員約20人と学生ボランティア等。

* 運営団体

「こどもとちいき」をテーマに、人口減少問題に直面する大都市近郊の自治体で活動。各地域で拠点施設を持ちながら市民と協働、独自の官民連携手法で自治体と連携しながら教育・福祉・地域開発・文化振興・飲食事業など多様な分野で事業を展開している。

2003年6月創業 事業費7億円 スタッフ約130名 拠点数 18カ所

* スマイルファクトリーについて

2002年10月に任意団体としてスタート。2003年6月NPO法人トイボックスに合流小中学生を対象としたフリースクールや技能教育施設のハイスクールからなる。

さまざまな課題を抱える子ども達をサポート。スクーリング、個別支援、訪問事業等を実施。

開催場所：毎週水～土 10時～15時

登録人数 小中約50名（市内40 市外10）ハイスクール8名

日々の通室人数 15～25名 スタッフ16名（ティーチングスタッフ7 SW1

臨床心理士3 カフェスタッフ2 ドライバー1 事務局2）

年間事業費 約4000万円

* 特徴

・1907年代にニュータウンとして開発が進んだ大阪府池田市の伏見台地区に存在。高齢化が進み、廃校となった小学校旧校舎を使用。

・地域との交流を心がける。地元住民も集まれる食堂「スマイルキッチン」を開く。

大人1食450円、子ども250円。スマイルファクトリーの生徒の他、校庭で遊ぶ地元

の子どもや近くの住民も訪れる。

- ・社会的な自立に向け、子どもの状況に合わせた個別カリキュラムを組んでいる。
- ・小・中学校はもとの学校に籍を残し、この場所での出席が在籍校での出席に換算される。
- ・選べる3つのスペース

小集団スペース→10~20人程度の小集団/2つの部屋から選択可能

少人数スペース→2~3組までのスペース/保護者との参加もOK

完全個室・半個室スペース

完全に1人で過ごしたい子どものスペースやパーティションで区切られたスペースと完全個室のスペースなどがある。

*主な質疑

Q.スクールには何年在籍できるのか。An.有料ではあるが、何年でも在籍可能。

Q.ここに通うと小・中学校を卒業したことになるのか。An.なる。ハイスクールも対応している。

Q.「心を癒やす授業」としては、他にどのような授業があるのか。

An.プールや自然観察、うなぎ放流、ほそごう学園『花いっぱいプロジェクト』等。

Q.学問の修得ということではどうなるのか。An.校長が許可したら取得可能。

*所感

日本初の公設民営のフリースクールとして存在する「スマイルファクトリー」を見学した。池田市教育委員会の委託でNPO法人が運営する全国でも珍しいフリースクールである。存在する場所は、以前は都市部のベッドタウンとして家族連れが多く入居していたが、地区の人口はこの20年で2割程減り、今年3月時点で約5400人となった。

65歳以上の住民が4割近くを占め高齢化が進んだ。その街中で廃校になった小学校を使用し、「スマイルファクトリー」は活動している。校舎内も改良されそれぞれ子ども達が安心して、落ちつきやすいように部屋に工夫がされている。理科の実験室だった部屋は木目調の暖かな感じのする部屋に仕上げ、どんな所でも子ども達がお気に入りの場所を見つけて読書がしやすいように座る場所なども工夫されている。全てが一度に改善されているわけではないが、少しずつ手を加えて「自分の家」のような空間作りが施されている。

「帰りの会」を拝見させてもらったが、スタッフがクイズを出して、その場にいる全員が楽しみ、参加出来やすいような工夫がされている。端からみるとどの子もみんな賢そうで問題を抱えているようには見えなかった。どの子も1人1人多くの可能性を持っているのだから居場所をつくり、今すぐには難しくても少しずつ社会に関われるよう引き続き支援は必要だと感じた。どの子も生きる力を身につけ羽ばたいて行って欲しい。